

露頭の風景 写真家の視点

斉藤 麻子

露頭をテーマに写真を撮り始めてから1年半が過ぎた頃、だいぶ写真の枚数も増えてはきましたが、否が応にも色彩的に茶系の写真が多く、岩や土ばかりの作品ながらも少し変化が欲しいと思い始めました。

今まで撮ってきた露頭とは少し違った石灰岩の露頭というもの、そのまだ見ぬ白い岩肌とその昔は温かい海のサンゴ礁だったという何かとてつもなく長いドラマがありそうなその背景に、撮影をする前から強く惹きつけられています。

白崎海洋公園は、そのような私の期待以上の風景を提供してくれました。

巨大に荒々しく露出した石灰岩と、それとは不釣り合いに綺麗に整備された駐車場、そしてそこに並ぶ車はあまりにも小さく見え、人と大地の関係性をとてもよく象徴しているようでした。

また近くには戸津井鍾乳洞があり、パンフレットによればこの鍾乳洞は2億5000万年以上前のペルム紀の石灰岩にできた洞窟とありますから、恐竜が闊歩していた時代よりも遙か以前の岩石ということになるのでしょうか。

この付近の石灰岩が途方もない時間をかけながら、どのような経緯を経て今ここに露出しているのか、とても興味の湧くところです。

地質屋の視点

及川 輝樹

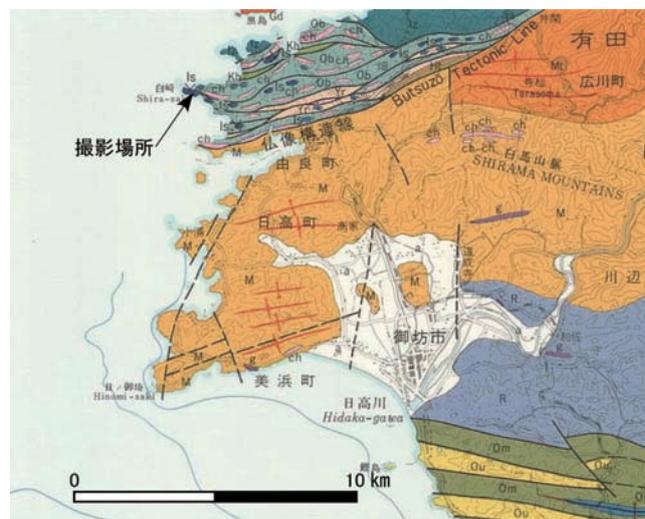
写真の中の駐車場のすぐ先に、ぬっと立っている岩は和歌山県由良町白崎の石灰岩です。紀伊半島西部に位置する白崎は岬全体が長径600mにも及ぶ真っ白な石灰岩で形成されています。岬の内側は、かつて石灰石鉱山として採掘されていましたが、現在はその跡地を利用した海洋公園として整備されています。茶褐色な岩がつくる海岸の中、真っ白な石灰岩がつくる岬をおとずれると突然異世界に来たような印象です。

この石灰岩は、南部秩父帯に属する中紀層群大引層中のもので、大引層は付加体です。付加体は、海溝に堆積した陸源性の砂・泥が、プレート運動によって運ばれた深海底上のチャートなどの深海堆積物や海山をつくる火山岩や石灰岩と共に、陸側に押し付けられ形成された地質体です。そのため、普通の地層と異なり、海山起源の石灰岩とその周囲の茶褐色の砂岩・泥岩との形成年代は通常著しく異なります。白崎の石灰岩は石炭紀からペルム紀にかけて形成されたものですが、周囲の砂岩・泥岩はジュラ紀の後半に形成されたものです。白崎の石灰岩ブロックは海山上のサンゴ礁起源であると考えられ、サンゴ化石の他、フズリナやウミユリ化石を豊富に含みます。つまり、恐竜がいた時期に、それより1億年以上前につくられたサンゴ礁が、プレート運動によって日本列島に押し付けられてつくられたのが白崎の石灰岩です。海洋公園に設けられた遊歩道沿いで、フズリナやウミユリ化石が簡単に観察できます。また、

遊歩道から海沿いを望むと小規模なカルスト地形も観察できます。

参考文献

- 徳岡ほか(1981) 20万分の1地質図幅「田辺」. 地質調査所.
- Yao (1984) Jour. Geosci. Osaka City Univ., 27, 41-103.
- 吉田 (2003) 地質ニュース, no.529, 61-63.



20万分の1地質図幅「田辺」(徳岡ほか, 1981)の一部に加筆。ch, ls, obが大引層。lsが石灰岩岩体を示す。仏像構造線より北が南部秩父帯で南が四万十帯。